

2024年4月18日

四国電力

取締役社長 長井 啓介 様

伊方原発をとめる会
事務局長 須藤昭男

伊方原発を直ちに停止して総点検し、 停止状態を保持するよう申し入れます

4月17日に発生した震度6弱の地震に関し、四国電力のプレスリリースは伊方原発3号機の「2次系ドレンタンクの水位制御がバックアップの系統に切り替わった影響で発電機出力が約2%低下」としています。また、深夜に行われた記者会見では「湿分分離加熱器の第2ドレンタンクの水位制御弁の制御が不調となり、発電機出力が約2%低下」と説明されています。昨夜の地震動によって通常の系統が不具合になったと見る他なく、危険の進展がないよう直ちに停止し総点検を行うべきです。

2月26日にも地震があり、このときは伊方原発から約21kmの所に震源がありました。今回だけでなく繰り返される地震動の影響は無視できません。

また、能登半島地震では志賀原発が停止していなかった場合、危険性が大きく膨らんでいた可能性も否定できません。

さらに、電力事情をみても、原発のゆえに再エネが大量に捨てられるような季節に入っており、原発停止を躊躇する理由はないはずです。

ついては、以下の2点を申し入れます。

1. 伊方原発3号機を直ちに停止し安全維持のための総点検を行うこと。
2. 地震が頻発するもと、停止後は再稼働させず停止状態を保持すること。